

本の万華鏡「本から広がる温泉の世界」を公開しました

国立国会図書館では、様々なテーマについて当館の蔵書を使って紹介するミニ電子展示「本の万華鏡」をホームページで公開しています。1月30日公開の第23回『本から広がる温泉の世界』では、日本人になじみのある「温泉」をテーマに取り上げます。

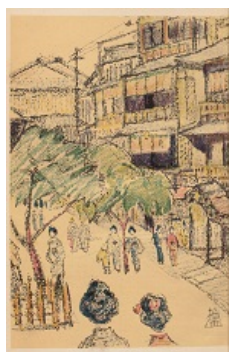
源泉数、湧出量がともに世界有数の規模である日本の温泉は、『日本書紀』や『万葉集』に記されるほど古くから日本人と関わりが深いものですが、時代や風習により温泉の環境や利用方法は変化してきました。

「本の万華鏡」では歴史書や文学作品、温泉案内や絵画など様々な文献を通して、現代に至るまでの温泉文化の流れをご紹介します。

●掲載資料の一部（下の URL から詳細な画像、資料の中身をご覧くださいませ）



江戸時代に「七湯巡り」で評判となった箱根を浮世絵師・歌川広重が描いた「箱根 塔の澤湯治場の図」。
 （出典：『東海道五十三對』 <請求記号：寄別 2-3-2-4>）



俳人・小説家の高浜虚子が道後温泉を題材に著した『伊予の湯』の口絵。夏目漱石が道後温泉に出かける様子を描いた随筆も収録されている。
 （出典：高浜虚子『伊予の湯』 <請求記号：384-45>）



版画家・川瀬巴水自身が温泉を楽しんでいる姿を描いたともいわれる「上州法師温泉」。（出典：川瀬巴水『川瀬巴水版画集』2 <請求記号：本別 7-302>）



本の万華鏡

<http://www.ndl.go.jp/kaleido/>

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103（直通）